

総合福祉学部

ソーシャルワーク学科

ソーシャルワーク学科は、医療体制や福祉制度の変化、介護問題、独居高齢者、生活困窮、虐待、権利侵害・・・ひとり親家庭の増加、障がい、貧困など複雑かつ多様化が進む現代社会に対して、個別支援と地域支援に関する知識・スキルの修得をしたうえで、社会福祉士と精神保健福祉士の2つの資格取得が可能です。

社会福祉士：

生活上のさまざまな困難を抱える人を、本人と周辺環境に働きかけるソーシャルワークを実践することで多角的に支援する職種

精神保健福祉士：

心の病や障がいを持つ人を、本人と周辺環境に働きかけるソーシャルワークを実践することで多角的に支援する職種

本学科で学べる2つのソーシャルワーク

- ①利用者主体で、個人やその家族の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施できる**個別支援**
- ②住民主体で、地域の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施できる**地域支援**



科目・学び方の特徴

- ・ソーシャルワークのほか、同じ学部に介護福祉マネジメント学科がある利点を生かし、**マネジメント・経営の基礎**を学修する科目を配置しています。
- ・**体験学習や事例検討、アクティブ・ラーニング（ケーススタディ、シミュレーション等）**を使い、ディスカッションやプレゼンテーション能力、思考力、判断力、表現力を養える工夫しています。

日本医療大学でなければならない3つの理由

①医療と福祉の連携が実現する総合大学

本学は、高齢者福祉サービスを展開してきた社会福祉法人ノテ福祉会が設置した**専門学校日本福祉学院**をはじめりとして発展してきました。そのため、医療と福祉からはじまり、既設の保健医療学部の医療系学生とも日常に授業をともにしながら医療と福祉の連携を学べる総合大学です。

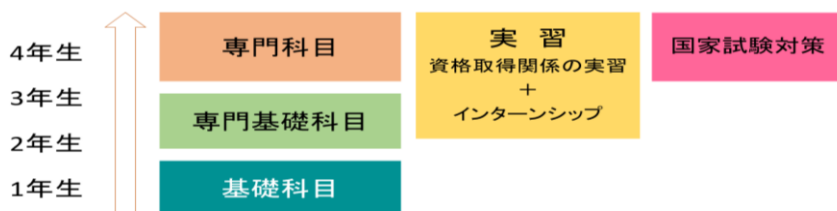
②大学での教育や実務経験豊富な専任教員

社会福祉系の大学や専門学校などでの学科長を歴任するなどの豊富な教育経験とともに、医療・福祉施設での実務経験を有する専任教員を配置し、教育的・実務的な2つの観点において充実した指導を行える体制です。

③国家試験対策と就職の充実

日本福祉学院時代から経験豊富な専任教員が国家試験対策を行い、数多くの社会福祉士、精神保健福祉士を輩出してきました。その知識・経験を引き継ぎ、国家試験に向けての態勢は万全です。さらに、これまでの卒業生が北海道内をはじめ道外にも広がるネットワークを築いており、これからニーズが高まる福祉専門職の就職は100%です。

入学後4年間のイメージ



卒業後

近年はソーシャルワーカー配置が必須とされる職場が増えており、それとともに収入も、国の処遇改善手当などを受けて**医療職と同程度**になってきています。

進路

社会福祉施設、社会福祉協議会、地域包括支援センター、医療機関、地方自治体、民間企業（金融機関など）、障害者相談支援事業所、障害者雇用・就労支援、社会的企業・ソーシャルビジネスなど